イラストレーション

2023年6月27日 作成

イラストは文字情報と組み合わせることで内容が伝わりやすくなる便利なツールです。
文字だけでは生み出しにくい親しみやあたたかい印象を与えることができます。
現在、試験運用中のため、今後内容を更新する可能性があります。

ガイドライン

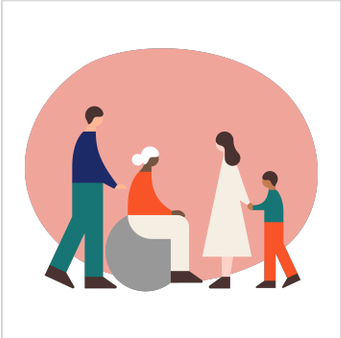
イラストの種類

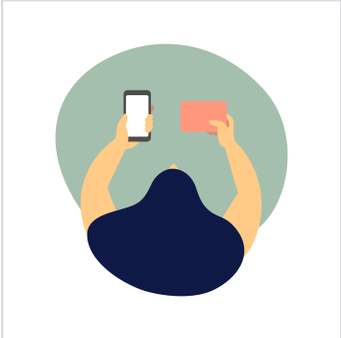
イラストは「イラスト(大)」「イラスト(中)」「イラスト(小)」の全3種類。

イラスト大

行政が展開するサービスや手続きの全体像を分かりやすく抽象的に伝えたイメージ図です。主に、ウェブサイトやウェブサービスのTOP画像、モバイルアプリケーションの紹介画面に使用できます。

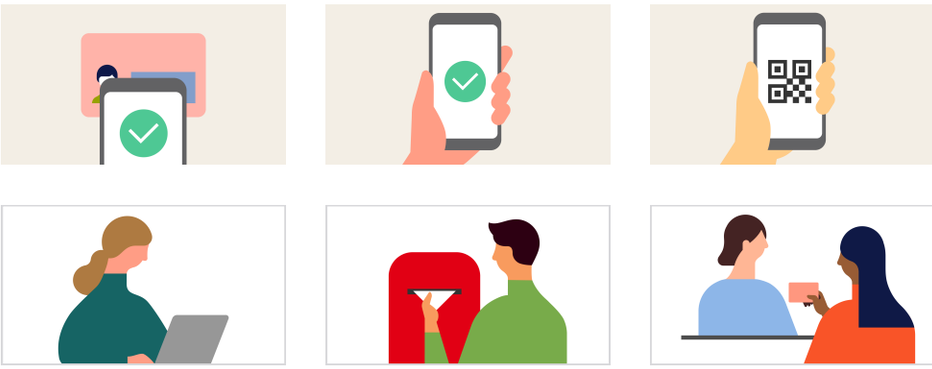
用途に応じて、イラストを使い分けることでより効果的に活用できます。





イラスト中

手続き時に発生する具体的なアクションを分かりやすく表現した説明図です。ウェブサイト、ウェブサービスやモバイルアプリケーションの説明画像として使用できます。

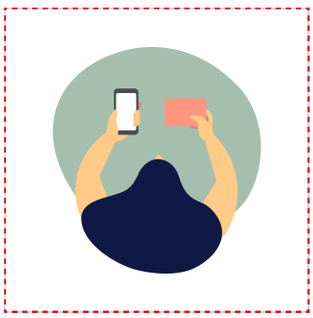


イラスト小

各イラスト内のパーツを取り出したエレメントです。エレメントを組み替えることで、さまざまなカスタマイズが可能です。

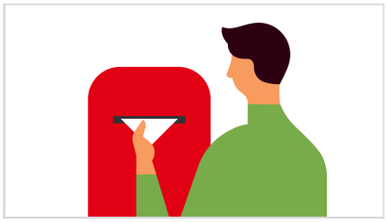
サイズ

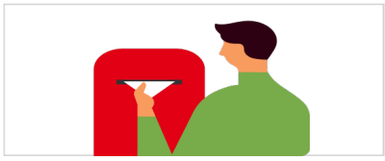
1:1と16:9の縦横比を基準として提供しています。画面のレイアウトに応じて使い分けてください。ウェブサイト・ウェブサービス全体の画像サイズの設計や、SNSの規格等に基づいて変更できます。サイズを変更する場合はイラストを変形させないでください。また、視認性が担保できるサイズで提示してください。



1:1

16:9





イラストを変形させないでください。

視認性が担保できるサイズで掲示してください。

使用例

各省庁や自治体のウェブサイトやウェブサービス、モバイルアプリケーションを制作する際、右記の使用例を参考に活用してみましょう。

分かりやすく伝える

平易かつ直感的な文章と共に用いることで文字だけのウェブサイトよりも分かりやすい印象をつくります。

実装上の注意

代替テキスト

スクリーンリーダーや、画像を表示できない場合のために、img要素に簡潔なテキストによる代替をalt属性に指定してください。

新規制作方法

イラストを新規制作する場合、以下のルールに則り、一貫性のあるものとしてください。

- 新規制作は、デジタル庁が承認する関係者に限ります。
- 関係者は、編集データの手配を担当者にお問い合わせください。

全体

「優しさ」を重視すること

- 複雑になりすぎないように少ない要素で構成してください。
- シンプルな曲線とシンプルな直線の組み合わせで制作してください。

構図

表情ではなく、「写真を撮る」「手紙を投函する」「窓口で手続きする」などの行為に目がいく構図とすること

- 上半身だけ切り取り、横顔を見せるアングルとしてください。その際、表情は極力無いものにしてください。
- エッジの処理・奥行き表現

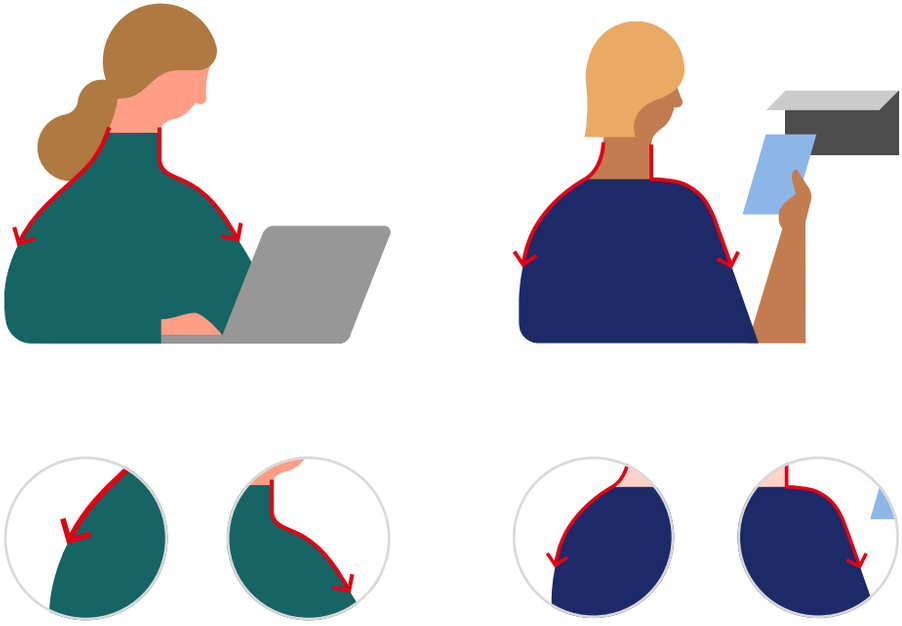
写真を撮る

窓口で手続きする

フォルム

全体の繋がりを意識しながら、メリハリをつけること

- 首から背中に続くなめらかな曲線と、肩を感じる曲線の組み合わせでボディを制作してください。

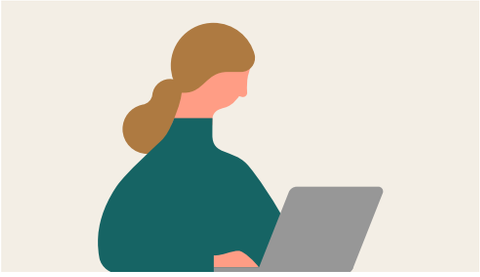


左側のカーブはシャツと首の繋ぎ目が緩やかで切れ目のないことを注意してください。
右側のカーブは方の箇所で一度垂直に曲がり、なめらかなカーブで終わるよう注意して下さい。

背景

視認性を担保するためにコントラストを考慮した色とすること

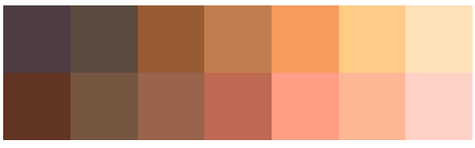
- 背景色はウォームグレー(#F3EEE5)を優先的に使用してください。



カラースキーム

肌・髪・洋服の色は右記のカラースキームに則り、設定してください。

スキンカラー



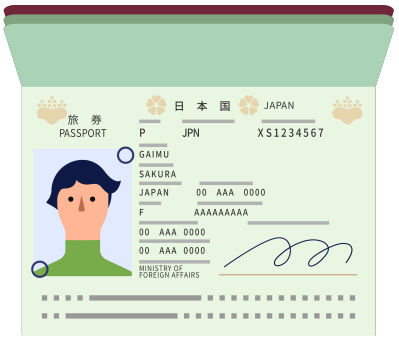
ヘアカラー

洋服カラー

背景カラー

カラーコントラスト

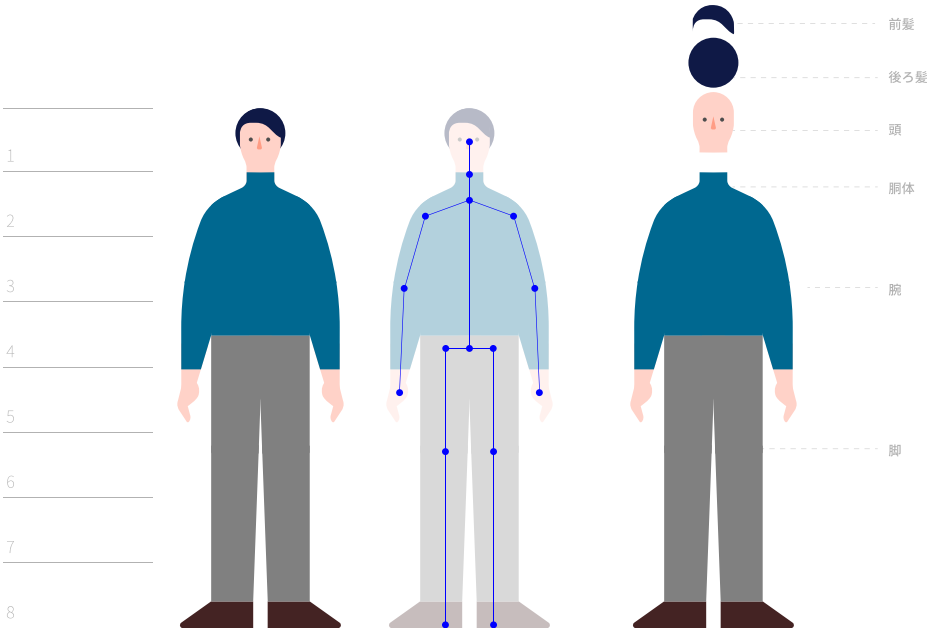
シーンや情緒的な表現をする際には、満たすべき最低限のコントラスト比について規定を設けません。ただし、適宜ユーザーテスト等で視認性が担保できているかを検証してください。
重要な要素の細い線や、画像内に可読性を担保すべき文字要素を表示する場合はコントラスト比4.5:1を保ってください。



エレメント

原則として、イラスト(小)のデータをそのまま使用してください。
もし新規で制作する場合は、右記を参考にしてください。

ヒト

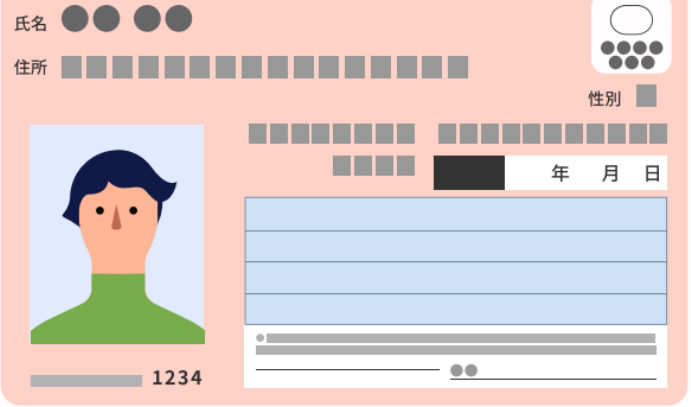


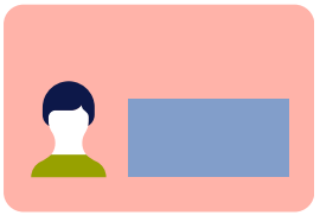
髪型

基本系

基本系に要素を加えることで髪型を作り分けます。

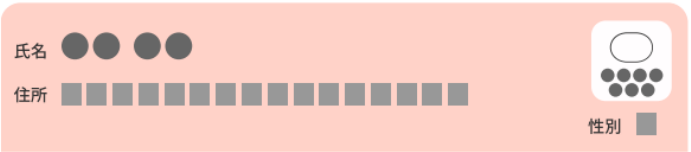
証明書





具象はなるべく本物に近い要素で構成し、抽象は具象の要素を間引く作り方をしてください。

証明書 具象



カードの色は1色とし、本物に近い色を採用してください。また、文字・数字部分は以下4点に注意してください。

1. 丸と四角を使い、表現すること
2. 一番目立つ部分に暗い色を使用すること
3. その他は暗い色を基調に薄く調整すること
4. フォントはNotoSansを使用すること

証明書 抽象

具象を基調に要素をできるだけ減らしてください(同一色面上に2~4つが目安)。
ポイントは、一目で印象に残る要素を残すことです。